

第35回東北高等学校空手道選抜大会
男子団体組手 3位

登米総合産業高 空手道部

左から鈴木零士、川熊海斗、三上瑛大部長、宮本峻汰、鈴木陽翔



「第35回東北高等学校空手道選抜大会」は1月21日から23日まで秋田県立武道館で開かれ、登米総合産業高空手道部が男子団体組手で3位に輝き、2016年以来2度目の全国大会出場を決めた。

団体組手は5人制。対一の対決で先に3勝した方が勝利する。引き分けなどで勝利数が同じ場合は、総取得ポイントの差で勝敗が決まる。

「全国大会出場の決め手になったのは県大会、東北学院高校との試合だった」と部長の三上瑛大は振り返る。鈴木陽翔が挑んだ中堅戦。序盤のスコアは5対0。問題なく勝てそうだが、チームが引き分けになる可能性を考え「大技に挑戦しよう」とイチかバチか崩し技を繰り出した。これが見事に決まり、スコア8対0で勝利。1勝2敗1引き分けで迎えた大将戦。副将戦に敗退したものの、先ほどの鈴木木判が生きポイントが優勢。ここで勝てば得失点差で決勝へと進める。川熊海斗は「緊張があったが、自分の強みを生かした試合にしようと思った」と當時を振り返る。同点で迎えた試合終盤、一瞬の隙を見逃さず突きを決めた。得意のカウンターで掴んだ渾身の勝利だった。その後の決勝には惜しくも敗れた

が、東北大会へと駒を進めることとなった。

東北大会に向け5人は、タイプの異なる相手との試合を想定し、OBと模擬試合を繰り返すなど、実践形式の練習を増やした。迎えた東北大会。互いに助け合いながら勝ち進んだ準決勝で思わぬ事態が起こった。先鋒次鋒と続けて敗れ、後が無い。中堅戦に挑んだのは川熊。格上の相手と渡り合っていたさなか、突然、審判からストップがかかった。力が入り過ぎたのか、気が付かぬ間にけがを負い、足から出血していたのだ。試合続行は不可能。残念ながら棄権となり、結果は3位。優勝は逃したが、7年前に繰り上がりで出場権を得たときは違い、今回は実力で全国大会への切符を手にした。

全国大会を目前に控えた3月16日、開催地の宮城県で最大震度6強を観測する地震が発生。会場も被害を受け、大会は中止に。地元で開催予定だったこともあり、ショックは大きかった。一週間後、落ち込むメンバーに思わぬ知らせが届いた。なんと代替大会の開催が決まったのだ。「どこが相手でも勝てるよう、今まで通り練習するのみ」と部長の三上は力強く語る。一度は途絶えた全国への道。勝利を目指して5人は再び歩み出す。



佐沼高ボート部

第33回全国高等学校選抜ボート大会
女子シングルスカル 準決勝進出
女子ダブルスカル 出場
男子舵手付きクオドルブル 出場



上：左から浅野ムハマドレイノ、西條翔風、武田陸斗、遠藤琉久斗、佐々木快心、佐藤礼、西條史哉
下：左から黒田恵真、久保田夏奈、大場日湖、千葉朋香

「第33回全国高等学校選抜ボート大会」は3月19日から21日まで、浜松市天竜ボート場で開かれ、佐沼高ボート部から3チームが出場した。

女子シングルスカルで出場した黒田恵真は、中学時代は吹奏楽部に所属。運動部出身の他の部員や昨年全国大会へ出場した先輩たちに負けないう食らいつきながら練習に励んだ。「自分の力を一杯発揮したい」と、シングルスカルでの出場を直訴。3位で全国大会への出場を決めた東北大会のレース後、自然と流れた涙は黒田の努力を物語っていた。全国大会予選では緊張からミスが増え、タイムは伸び悩んだが「一度こいだことで気持ちが楽になった」と、敗者復活戦をグループ1位で突破。準決勝で敗れたものの「周囲の支えに感謝しながら夏の大会でもベストを尽くす」と、前を向いた。

ダブルスカルで出場した1年の久保田夏奈と大場日湖は、物心がついた頃からの幼馴染。入部当初から頭角を現した久保田に対し、大場は部内の選抜レースで勝ち切れず、ダブルスカルでの県大会出場はかなわなかった。大場は「悔しかった分、冬の練習を人一倍頑張った」と奮起。全国大会前に再び開催された部内の選抜レースで好タイムを記

録し、直前で全国出場メンバーの座を勝ち取った。二人で練習できる時間は数えるほどしか無かったが、久保田は「息が合っただけでよかった」と阿吽の呼吸を見せる。3位までが準決勝に進める全国大会予選ではグループ4位と惜しくも敗れたが、競技を始めて一年足らずの二人は確実に全国での爪痕を残した。

男子舵手付きクオドルブルは漕手4人に舵手1人を加えた5人乗りの種目。クルーリーダーの西條翔風を中心に練習を重ねた。迎えた秋の県大会、1位通過で東北大会へ進んだが、さらなる強豪がひしめく東北大会でも1位になることが全国大会出場への絶対条件。「このままではいけない」と、チーム内で積極的に声掛けするよう意識した。タイムはぐんぐん伸び、東北大会では他に大差をつけて優勝。全国大会ではオールが折れるトラブルから予選で敗退したが「ベストを尽くせば全国大会でも通用する」と自信を深めた。

顧問の井上裕市先生は「全国大会に3チームも出場できたことは大きな収穫。この経験を今後生かしていく」と、先を見据える。部内での競争がさらに活気付く佐沼高ボート部。全国大会の経験に胸に、夏の飛躍へ舵を切った。